

# 花みづき

第 34 号 / 2020.4.1

## ワンダーランドの図書館へ

白梅学園大学・短期大学図書館 新館長  
子ども学部 子ども学科 教授  
本山 方子

人間はなぜ共食をするのだろうか。

これは、大学院生時代に総合学習のカリキュラム開発で担当した単元の間いである。生活科や総合学習の導入が議論されていた頃、これからの時代、教師は知っていることばかりを問うのではなく、知らないことで子どもと共に「なぜか」と考える姿勢でいることを求められた。

さて、どこから取りかかろうか。「共食」つまり誰かと食べるということは、誰かと食べないということでもある。大学の図書館の書庫に入り、家政学の書棚で見つけたのは『なぜひとりで食べるの：食生活が子どもを変える』（足立己幸・NHK「おはよう広場」著、日本放送出版協会、1983年）であった。そこには、親がいても子どもが家庭で孤食をしている現実とその背景が描かれていた。

そこで今度は、なぜかつては家族揃って食事を取るのが当たり前だったのか、と逆説的に問うてみた。共食を是とする文化ゆえに孤食が問題になるのだが、一方で子どもの孤食自体を可能にする状況もある。民俗学や文化人類学の書棚で『現代日本における家庭と食卓：銘々膳からチャブ台へ』（石毛直道・井上忠司編、国立民族学博物館研究報告別冊 16号、1991年）という分厚い報告書に手を伸ばした。家庭の食卓の主流は、明治期頃から箱膳（銘々膳）からちゃぶ台、ダイニングテーブルへと変遷する。その背景には家族関係や世帯構成などの変化に加え、家事労働の重さの変化がある。かつては、飲食用の水を井戸などから汲み上げ、かまどの火を管理し、家事は重労働であった。食事は作られたときに温かいものを家族一斉に食べないと、



家事が滞るのだ。時代を経て、今は水道やガス、電気が各戸に整備され、電子レンジの操作が分かれば、子どもも簡単な食事を取ることができる。

では、そもそも、なぜ食事は家族単位で為されるのだろうか。私は初めて自然科学の書棚に入り、アフリカの狩猟採集民や霊長類の調査報告に出合った。『ヒトの自然誌』（田中二郎・掛谷誠編、平凡社、1991年）や『サル文化誌』（西田利貞・伊沢紘生・加納隆至編、平凡社、1991年）には、人間が共同で狩猟をして共同体で肉を分配する様子や、サルは他の個体に黙認するかたちで肉を分け与えていることが書かれていた。肉の保存には限界がある。共食のもとを探ると食材の分配と調理の問題にたどりついた。

テーブルを囲んで家族と食べるという日常の行為は、人間の進化という膨大な時間のなかで形成され、受け継がれてきたものである。その時間に紡がれた人間の知恵が図書館には詰まっている。

「不思議だ」と問えば開く図書館の扉。ようこそ、ワンダーランドの図書館へ。

### ▶本山先生おすすめ図書

- 『なぜひとりで食べるの：食生活が子どもを変える』足立己幸・NHK「おはよう広場」著、日本放送出版協会、1983年
- 『〈物語〉のゆらぎ：見切れない時代の児童文学』奥山恵著、くろしお出版、2011年
- 『こども映画教室のすすめ』土田環編、春秋社、2014年

## 知的好奇心を活性化してくれる 図書館

図書館は私にとってかけがえのない場所です。幼い頃から近くの図書館にはよく通っていた方ですが、大学に入ってから、大半の時間を過ごす場所となっていました。初めは、自分が気になることを調べていただけでしたが、一つのことを調べているうちに、「あれも知らない、これはどうなっているのだろう」という疑問が次々と溢れでてきました。また、書棚にずらりと陳列されている本に圧倒され、自分の思考や“調べもの力”の足りなさを思い知らされます。図書館は静かな場所ですが、私の脳内が活性化し、興奮する忙しい場所です。

私のこっそりとした趣味の一つに、様々な図書館を訪れることがあります。読みたい本が自分の大学の図書館にない場合、外部の図書館から本を取り寄せる方は多いですが、都内の図書館であれば近いので、できるだけ自分でその図書館に赴くようにしています。実際に足を運ぶと、お目当ての文献に出会えること以外に、その図書館の雰囲気や、本の配置の仕方、その図書館が力をいれている分野などを体感することができます。

白梅学園大学には昨年からは着任したのですが、他の大学図書館に比べて、白梅の図書館はかなり個性的だと思います。小規模ながら、絵本や児童書が豊富にあり、児童福祉でメルクマールとなるような本もきちんと揃っています。欲を言えば、もう少し隠れ家的なじっくりと本を読めるスペースがいくつかあればいいなとは思いますが、個人的に



子ども学部 家族・地域支援学科 講師  
田中 真衣

は、地下に降りたところに設置されている、季節ごとに紹介されている絵本コーナーがお気に入りです。ほっこりさせてもらっています。

下記に、5冊の本を紹介させていただきます。学部や院生時代に、漠然としてモヤモヤとしていたことが、スーッと霧が晴れるような経験をさせてくれた本です。社会や人間について理解を深めてくれる導入本だと思います。

学問の道に足を踏み入れたみなさんも、この大学に間に自分の脳に刺激を与えてくれる本に出会えますように。

### ▶田中先生おすすめ図書

- 『社会福祉における市民参加』 社会保障研究所編, 東京大学出版会, 1996年
- 『構築主義とは何か』 上野千鶴子編, 勁草書房, 2001年
- 『対称性人類学』 中沢新一著, 講談社選書メチエ, 2004年
- 『永遠平和のために／啓蒙とは何か』 カント著, 光文社, 2006年
- 『ヨーガと浄土』 立川武蔵著, 講談社選書メチエ, 2008年

### ■ 主なデータベース ■ (一部学外アクセス可)

- <日本語論文> CiNii Articles、雑誌記事索引集成データベース、医学中央雑誌、メディカルオンライン、日経 BP 記事検索サービス
- <外国語論文> PsycINFO、PsycARTICLES、Academic Search Elite、Child Development&Adolescent Studies
- <新聞>朝日新聞 聞蔵、読売新聞 ヨミダス歴史館、毎日新聞 毎索
- <百科事典>ジャパンナレッジ、ブリタニカオンライン

図書館ホームページの「データベース」より、オンラインで利用できます。



図書館ホームページの「利用状況照会」で借りている本の確認・予約ができます。

## 知をたぐりよせる身、時、紙片



米国国立公文書館記録管理庁II号館

ホワイトハウスの北西デュボンサークルの一角にハンバーガーが評判の店がある。アンガスビーフの旨味を求め何度も並んだ通りの先に、かつて米国児童教育協会 (Association of Childhood Education) があったこと、そして協会関連の史料は、長期研修中に通い続けたメリーランド大学カレッジパーク校ホーンベイク図書館の、一度も踏み入れたことのない書庫に所蔵されていることに気づいたのは、帰国2日前の2016年3月末だった。

戦争に協力的だったとされる倉橋惣三は、敗戦後の保育界の再建に画策し、占領軍の仲介をえて、米国児童教育協会宛に1948年6月23日付で書簡を送る。日本では教育機会の均等と民主化が危急の課題であり米国の知見から学びたい、ひいては同年7月27日から5日間の予定で開く第二回全国保育大会 (奈良女子高等師範学校) に助言を、と懇願する。折り返しすぐ、同協会常務理事のメリー・レバーは7月6日付の返信で、子どもの問題は世界共通だから協力し合おうとの言葉を寄せ、冊子「子どものための行動計画 Action For Children」を同封する。この「行動計画」の提言は『幼児の教育』で紹介されるが、原本と突き合わせると肝心の一項目が抜け落ちている。それは、戦争という悲劇をもたらした誤解、不寛容、利己主義は、乳幼児期の経験に深く根ざす偏見から生じるゆえに、教育により互いに尊重しあう人間関係を築くことが民主社会実現の要となるという項目である。実はこの発見は「たまたま」で、メリーランド大学に隣接する国立公文書館記録管理庁II号館 (National Archives and Records Administration = NARA II) で、坂西志保の戦時中の足跡を調べていた最中のことだった。ミシガン大学で哲学を修めた坂西は、戦前に米国議会図書館 (Library of Congress) の初代日本部資料責任者を務めた、真正のライブラリアンで、ゲゼルが設立したイエール大学の児童発達研究所の動向に詳しく、『保育要領』刊行に尽力したヘレン・ヘファナンとの共著もある。が、その卓越した知性と行動力は、男性中心社会のなかで当時も今も正当に評価されてきたとは言い難い。

NARA IIでの調査は、予備調査の結果をもとにアーキビストに研究目的を伝え、レファレンスの方針についてコンサルテーションを受けるところから始まる。公文書は「出所の原則」と「原秩序維持の原則」に拠って厳密に管理されており、文書を所管していた組織・機能を基本単位とし、業務内容だけでなく、やり取りの経緯や背景



白梅学園大学大学院 子ども学研究所  
子ども学部 教授  
首藤 美香子

を残すことが優先される。よってファイリングのされ方は部署により異なり、調査にあたって検索のトピックスを絞り込みすぎず、紙で綴られた分厚い資料目録を一枚一枚めくり、眩暈がするほど細かなタイピングの文字をなぞりながら、目ぼしい資料が潜んでいそうな「箱」に当たりをつけ、その「箱」のありかを示す「書架住所登録簿」から基本情報を手書きで写し、閲覧申請書を出す。だから「箱」の中身は実際に出して並べて見てみないとわからない。上に挙げた書簡は、連合軍占領司令部記録群 (GHQ/SCAP・RG331) の民間情報教育局 (CIE) シリーズではなく、民事局 (CAS) シリーズの近畿地方教育ファイル「学校視察への教育方向 1947年2月—1948年8月」に入っていた。Sozo Kurahashi と筆跡も生々しい署名が残る薄茶けた紙片は、伝聞によって輝かしく膨らみすぎた偉人の実像を現実に蘇らせ、足が震えた。

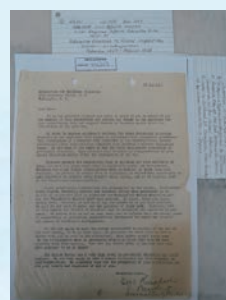
モニターに映し出される情報を指先ひとつで操作することで世界を動かすシステムを作り上げた国の中枢には、「研究の原点」がまだ、こうして息づいている。



「箱」



「箱」のなかの資料



倉橋直筆の署名入り書簡

### ▶首藤先生おすすめ図書

- Mary Jane Kehily eds.(2013)*Understanding childhood: A cross disciplinary approach (Open University Childhood Series)*, Policy Press
- Paula S. Fass eds. (2014) *The Routledge History of Childhood in the Western World*, Routledge
- Daniel Thomas Cook eds.(2020)*The SAGE Encyclopedia of Children and Childhood Studies*, SAGE Publications Ltd.

※写真はすべて筆者撮影

# 古田 足日氏



## 寄贈資料プロジェクト



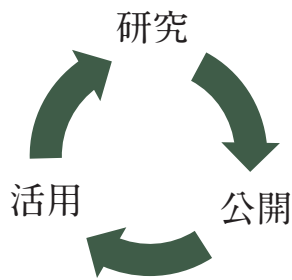
古田足日氏書齋。ここでさまざまな原稿・絵本が生み出された。

年代別に並べられている児童書の数々。

数万冊にもおよぶ貴重な研究資料が白梅に寄贈された。



「絵本ナビより」



(図書館×子ども学研究所共同)

# 始動!

2014年6月に亡くなった

古田 足日氏について

1927年愛媛県生まれ。

早稲田大学露文科中退。児童文学作家・評論家。

主な作品

「おいしいのぼうけん」、「ダンブえんちょう やっつけた」(いずれも童心社)、「ロボット・カミイ」(福音館書店)、「モグラ原っぱのなかまたち」(あかね書房)、「新版宿題ひきうけ株式会社」、評論「児童文学の旗」(いずれも理論社)、最新刊に評論「現代児童文学を問い続けて」(くろしお出版)など多数

## 児童文学作家「古田足日」の蔵書アーカイブプロジェクト

古田足日氏(1927～2014)は、『大きい1年生と小さな2年生』(偕成社、1970年)や『おいしいのぼうけん』(童心社、1974年)でも知られる日本の代表的な児童文学作家である。早稲田大学時代に早大童話会で鳥越信、神宮輝夫、山中恒、鈴木実らと出会い、ともに児童文学の評論と創作を続け、日本児童文学者協会会長も務めた(1997～2001年)。

このたび、前学長汐見稔幸氏の紹介により、86歳で逝去された古田足日氏の蔵書(児童書、絵本、研究書、社会活動関係資料、大学での講義関係資料等)約33000冊が白梅学園に寄贈されることになった。大学が大学図書館と子ども学研究所とともに管理していくことになる。3万冊というと、一般住宅の1階も2階も埋め尽くすほどの量である。本学としては、身の丈に余るほどの日本児童文学を中心とした知的財産であるが、「子どもについて関心をもって勉強している学生さんたちに使ってもらいたい」と、あっさり託して下さったご令室文恵氏の篤志に何とか応えなければと、古田足日アーカイブプロジェクトを立ち上げ



近藤学長より古田文恵氏への寄贈資料記念アルバム贈呈。



プロジェクトリーダー

子ども学部 学部長 教授 高田 文子

た。関係専門領域の大学教員と、図書館職員、子ども学研究所職員との合同プロジェクトである。

このプロジェクトのミッションは、前述の蔵書の搬出・搬入計画にはじまり、学内学生、教職員の閲覧に供する環境整備を目指すのは勿論のこと、学外への公開をも想定したアーカイブを実現することである。加えて、その蔵書を新たな住処に眠らせることなく、知的財産として息吹きあるものとするために、研究対象として精査し、古田氏についてもその思想、児童文学研究と評論、教育者としての姿、活動家としての発信といういくつかの切り口からアプローチを交錯させていく予定である。この研究計画には、学外からも複数の児童文学、児童文化、社会学などの研究領域から専門家たちが参集することになっており、新たな研究の進展をめざしていく。また、ご令室と古田作品の創出に関わった方や、古田氏を囲む古田足日児童文学塾のメンバーであった方々へのインタビューを実現することで、さまざまな証言を遺すことを考えている。これらの研究が進むことにより、古田氏が子どもに向けたまなざしの意味を問い、子ども学研究の一助となれば幸いである。

## 私の学生図書館： 文壇バー「サロン・花の木」

新宿・歌舞伎町ゴールデン街。かつて非合法で売春が行われ、「青線」とよばれていた場所である。戦後になると、文壇バーなど個性豊かな店が多くなり、常連客として作家、編集者、映画監督、俳優、大学教授といった文化人が多く集まることで知られていた。その中の一軒、「花の木」に広田和子さんというサロン経営者がいた。広田ママは同時に、記者でもあり、ノンフィクションライターでもあり、直木賞作家・佐木隆三の元奥さんでもあった人だ。私が大学時代、スキー部にいた先輩の母親でもあった人で、その縁で8年間アルバイトをした。お店で働いている間、広田ママ、お客さん達、友人達と大いに飲み、大いに語り、多くを学んだが、広田ママからはたくさんの本も紹介してもらった。広田ママはいつも相手の立場や特性、興味を見抜き、絶妙なタイミングで本を薦めてくれた。私が当時好きだったのは、井上ひさし、帚木蓬生、宮部みゆき、荻原浩の小説で、特に社会問題を取り上げたテーマのものだった。そこに共通していたものは、常に弱者の側から問題を見据える温かい視点と、物語の最後の救いだった。井上ひさしに関しては戯曲も読み、広田ママ、お客さん、友人、皆で演劇も観に行った。例えば、戦後日本を傷痍軍人や市井の側から描いた『きらめく星座』、広島の被爆者父娘を描いた『父と暮せば』、太宰治にエールを送った『人間合格』など、俳優さん達の息吹と共に今も目の底に焼き付いている。帚木蓬生は精神科医で小説家、私の生き方に最も影響を与えた小説家の一人だ。『閉鎖病棟』『カシスの舞い』『水神』など、どれだけ私の姿勢を正してくれたか分からない。



最新おすすめDVDも視聴できます。



子ども学部 発達臨床学科 准教授  
松田 佳尚

圧倒的な筆力の宮部みゆき。『火車』『理由』『模倣犯』などに心を打たれた私は妻や妹にも薦め、互いに深く共感し、妻と、妹と、心で繋がりがあえたと思う刹那を与えてもらった。荻原浩は軽妙な文章の中にも本来弱いはずの人間に対する慈愛や気高さ逞しさを表現する『オロロ畑でつかまえて』『ハードボイルド・エッグ』など、感性の良い人とはこういうことかと感銘を受けた。そして最後に、広田ママ自身が執筆した『証言記録 従軍慰安婦・看護婦』は、記録ではなく記憶こそを大切に、当事者の慟哭をまるごと抱きしめてくれる広田ママの人間性そのものだった。サロン「花の木」は今の私をいざなってくれた図書館。その広田ママは2018年1月11日鬼籍に入った。

### ▶松田先生おすすめ図書

- 『きらめく星座』井上ひさし著、集英社、1988年
- 『父と暮せば』井上ひさし著、新潮社、1998年
- 『人間合格』井上ひさし著、集英社、1990年
- 『閉鎖病棟』帚木蓬生、新潮社、1994年
- 『カシスの舞い』帚木蓬生、新潮社、1983年
- 『水神』帚木蓬生、新潮社、2009年
- 『火車』宮部みゆき、双葉社、1992年
- 『理由』宮部みゆき、朝日新聞社、1998年
- 『模倣犯』宮部みゆき、小学館、2001年
- 『オロロ畑でつかまえて』荻原浩、集英社、1998年
- 『ハードボイルド・エッグ』荻原浩、双葉社、1999年
- 『証言記録 従軍慰安婦・看護婦』広田和子、新人物往来社、1975年

## 本と出会うこと 人と出会うこと

子どもに関わる仕事、保育に関わる仕事では、絵本や物語、紙芝居などに触れることは日常なことであるように思います。古くから読み継がれている本もあれば新たなブームとなる新刊本もあります。子どもに本が好きな人になってほしいとの願いを持ち、子どもが興味を持っている本や、時には保育者としての願いから子どもに出会ってほしい一冊を保育の中で取り入れていくこともあります。絵本の一ページ、一ページに食い入るような子どものまなざしを、自分のことのように嬉しく感じ、一緒に本の世界を味わう…保育の醍醐味のひとつです。私自身も、幼い頃に毎晩のように読んでもらった『ながいながいペンギンの話』（いぬいとみこ）や中学校時代に友人から薦めてもらった『路傍の石』（山本有三）、学生として保育を学んでいた頃出会った『「いき」の構造』（九鬼周造）、『ながい坂』（山本周五郎）、『変わるものと変わらぬもの』（遠藤周作）など、その時々には様々な本と出会ってきました。現在は残念ながら専門書の方が多いのですが、本から多くのことを感じ取る中で現在に至っています。

しかしながら、子どもに関わる仕事を目指す人の中にも実は本はあまり好きでないという人がいるかもしれません。ある学生さんが「小さい頃に本と出会う機会があまりなかった。そのまま今も本は身近な物ではないし、好きでもない」と正直な気持ちを話してくれたことがありました。この話を聞いた時、保育の中に本との出会いが日常的にあ



各教員おすすめ図書は図書館に所蔵しています。ぜひご利用ください。



短期大学 保育科 准教授  
源 証香

ると思っていた私の前提が、実はそうではなかったことに気づかされました。本を身近に感じるということは、本との出会いを大切にしている人、その人の存在が初めて子どもたちは本と出会うことができるということ、深く考えさせられた時でした。

その上で、改めて私のこれまでを振り返ってみると、幼い頃に優しく語ってくれた祖父母、真剣な表情で専門書を読む両親、お気に入りの小説を紹介してくれた中学時代の友人、様々な保育書を熱く勧めてくださった学生時代の恩師など、「本が好き」な人との出会いに恵まれていたことを感じます。保育者養成校の教員として在る今、本と出会うことの意味や豊かさを、私自身の本との関わり方で示していくことが大事な役割であるように思います。そして、「本が好き」という実感をもった卒業生たちが、それぞれの場で子どもたちと出会い、その子どもたちに本との出会いを繋いでくれることを願っております。

### ▶源先生おすすめ図書

- 『シェイクスピアの面白さ』中野好夫著,新潮社,1971年
- 『一休を歩く』水上勉著,日本放送出版協会,1988年
- 『眼の沈黙』中村真一郎著,朝日出版社,1986年
- 『生きること育てること—日本の教育史の一側面』田中未来著,福村出版,1987年

## 図書館おすすめスポット

地下階 仲本ゼミおすすめ絵本  
閲覧机 / 紹介コーナー・イスの入れ替え

地下も新しく  
なりました。

### ■図書館地下階の閲覧机、イスを新しく入れ替えました。

図書館地下階にある閲覧机4台とイス24脚を新しいものに入れ替えました。閲覧机については、一昨年3月に実施した卒業予定者アンケートで要望がありましたので、1階閲覧机・イス入れ替えに続き、今回第二弾として実施させていただきました。授業や資格のための勉強にぜひ活用してください。また、地下階閲覧席付近には仲本ゼミ生おすすめ絵本・紹介コーナーも設けています。季節ごとにラインナップが変わりますので、こちらも注目してください。今後も館内環境をますます充実させるよう努めていきますので、図書館アンケートを行う際はぜひご意見やご要望をお聞かせください。



### ■図書館スタッフがおすすめする本コーナー（1階）

図書館スタッフが、在学生のみなさんにぜひ読んでほしい本を取りそろえています。

小説やルポルタージュ、エッセイなどの現代社会に関係するテーマや、日々の勉強に関係するものなど、様々なジャンルが並んでいます。一見、関係ないように思えるタイトルでも実は役に立つこともあります。図書館1階の閲覧席横にありますので、ぜひ手にとって知識・興味関心を深めてみてください。



### ■小学校教科書、学年別絵本、教員養成推薦書コーナー（1階）

図書館の1階階段横にコーナーがあります。各小学校で採択している国語・算数・理科・社会・道徳等の教科書と、各教科の指導要領が並んでいます。

また、先生方が推薦した小学校教諭になるために読んでおきたい本も隣にあります。貸出（1週間）もできますので、小学校教諭を目指す方はぜひこのコーナーに足をはこんでください。



## 図書（絵本） 貸出ベスト10

(2019/1/1～2019/12/31)



順位	回数	書名
1位	41回	施設で育った子どもたちの語り
2位	29回	跳びはねる思考 会話のできない自閉症の僕が考えていること
3位	28回	育ちつづける人達 障害の現実と普通の生活のはざままで
4位	27回	たんぼぼのうたがきこえる
5位	26回	はらぺこあおむし
6位	25回	ぐりとぐら
6位	25回	子どもが語る施設の暮らし 2
6位	25回	こんとあき
9位	19回	母と子のきずな パート2 母子生活支援施設は家族を支えます
9位	19回	だるまさんが
9位	19回	すてきな三にんぐみ
9位	19回	スイミー

2019年も保育・施設実習などに関する図書や絵本が上位に。絵本では、小学生に読んで欲しい本として教科書に掲載された「こんとあき」「スイミー」が新たにランクイン。「ぐりとぐら」「はらぺこあおむし」も根強い人気です。読みたい本が見当たらなければリクエストも受付しています。

## DVD（ビデオ） 閲覧ベスト10

(2019/1/1～2019/12/31)



順位	回数	作品名
1位	74回	リメンバー・ミー
2位	57回	グレイテスト・ショーマン
3位	54回	モアナと伝説の海
4位	45回	インクレディブル・ファミリー
5位	43回	美女と野獣 Beauty and the Beast
6位	40回	8年越しの花嫁 奇跡の実話
7位	35回	告白
8位	33回	ぼくは明日、昨日のきみとデートする
9位	31回	余命1ヶ月の花嫁
10位	24回	ジョーズ Jaws

アニメ・邦画・洋画問わず新規購入したタイトルが多くランクインしました。「モアナと伝説の海」「美女と野獣」「余命1ヶ月の花嫁」は2年連続ランクイン。ご利用の場合は、1階利用者PC近くにあるファイルより希望タイトル番号（HPからも検索可）をカウンターに伝え、学生証をお出しください。

花みづき・図書館についてのご意見・ご感想を図書館までお寄せください。E-mail : library@shiraume.ac.jp

図書館のホームページはこちらから <http://libwww.shiraume.ac.jp/>

